

ずいひっ



# ありがとう！キムタク

## ～ 外さなかったマスク～

株式会社石崎電機製作所 代表取締役社長 石崎博章

学生時代は、中学から大学まで野球部に所属し、うまくならない、そして強くなりたいと懸命に努力の日々(?)を過ごしていたが、早いものでもう卒業以来25年の歳月が経過した。先般ふと、大学の監督からご指導賜った大切な事を思い返した。「野球に一番大事なのはチームワークだ。チームワークとは、お互いがお互いの役割を認識しあい、自分の役割を果たすことである」という意志を。

それは、今年4月に元巨人軍コーチの木村拓也氏が、くも膜下出血で急逝し、後から次の事実を知った時であった。現役時代、彼はユーティリティプレイヤーといわれ、特に伝説的となった昨年9月4日のヤクルト戦では、延長12回の表に交代捕手がいなくなり急遽捕手に就いた。彼の凄かった点は、11回攻撃中に最後の捕手が死球を受けた時点で、自主的にブルペンに向かい練習をして準備に取り組んだことだ。つまり、時局によって変化した自分の役割をしっかりと捉え、徹底してそれを果たしていたことである。

また、12回ベンチを出て守備から戻るまでの間、一度もマスクを外さなかった。それは、ニタついた顔を見られたら、緊迫したゲームも緊張の糸が切れ台無しになってしまうと思ったからだそう。これも、空気を読み、自分の役割を最大限に果たすために考えた最良の手段だったのであろう。試合後のインタビューでは「捕手はもういいです」と発言したと聞かすが、これは仲間への最大級の気配りと考えられる。原監督は、普通にこんなことのできる選手がいる環境から「このチームは強い。優勝できる」と手ごたえをきくと感じたに違いない。

もう一つ、大学の監督の口癖が蘇った。「野球のポジションは9つではない。レギュラー、控え、監督、コーチ、主務やチームに関わる全ての人間にポジションがあり、そこに役割がある」

まだ純粹だった(?)大学の最上級生で秋春と連覇できたのは、このことを単純に思い、ただひたむきに練習に取り組んできた結果だったのかもしれない。

“自分に関わる家族や会社や団体等にとって、自分のポジションを再認識し、最優のチームワークが保たれるよう、その役割を常に考えながら過ごさねば”と考えさせられる。

今は亡き木村拓也氏を偲び、病魔にはなるべく出くわさぬよう、今後、食べ過ぎ君・飲み過ぎ君をレギュラーポジションから外し、健康に留意していきたいと思っている。